国際ロータリー
第2570地区

2025-26

川越ロータリークラブ
会　報　No.16

UNITE FOR GOOD

Rotary

2025 年 10 月 28 日　第 3544 回例会　会場：川越プリンスホテル 5 階

会員数：104 名　免除出席者：10 名　正会員出席者：42 名　出席者：52 名　出席率：56.52%

プログラム
点鐘（12：30）／ロータリーソング（第４例会：手に手つないで・R-O-T-A-R-Y）／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：山﨑ＳＡＡ〉

会長の時間

2025-26 年度 会長 吉澤　徳安

・金融市場の動き。日経平均は 5 万円台、為替は 1 ドル＝152～153 円。個別銘柄には触れませんが、35 年の現場経験から今の相場をどう見ているかと言うと「30 年ぶりに個人マネーが動いている」とマーケットを見ています。新 NISA で生涯投資枠 1,800 万円が非課税、口座数は約 2,700 万、買付累計額は約 70 兆円。家計金融資産約 2,400 兆円の大河が、流路を変え始めました。30 年前は若手時代でしたが、個人向け国債の利子非課税特例で店頭が沸騰し、3 年国債 8%台・定期 3%台の利回り差に、資金が“ハーメルンの笛”のように一方向へ走ったことを思い出します。今回も政策論や評論より「現場の実需」が勝つ局面です。海外・不動産マネーの流入も重なり、定期から投資へという単純な置換ではなく、家計のお金の使い方そのものが再設計されている。あと 2～3 年続く可能性がある一方、反転すれば一気に止まる。だからこそ、過熱に溺れず、しかし機会は逃さず、顧客本位・長期志向で伴走することを金融機関の皆さんに強くお願いしたい。

・国際ロータリーの現状。最新の報告によれば、かつては120万人規模の会員が、直近で約112万人。この 1 年で約 1 万人減少し、世界のクラブ数も約 3,600 のうち約 150 が消滅しました。減少傾向は過去 10 年続いています。ローターアクトも昨年 9 月に約 20 万人だったところ、直近は約 13 万人と、減少率はさらに大きい。若手流入など明るい材料はあるものの、ボランタリー団体全般に運営の難しさが増しているのは否めません。

・年度事業計画書の表紙にしているゴーギャンの「我々はどこから来て、何者で、どこへ行くのか」という問い、そしてヴァレリーの「人は湖の舟を漕ぐように、後ろを向いたまま未来へ入っていく」という言葉です。過去を見据えながら前へ進む―温故知新の姿勢こそ、今のロータリーに必要ではないでしょうか。この地域でも、私が入会した頃は 50 クラブでしたが今は 44、今後はさらに減少する可能性もあります。川越ロータリークラブは安泰ですが、周囲まで視野に入れ、私たちが範を示し牽引していかなければならないと考えています。

幹事報告

2025-26 年度 幹事　高橋　哲彦

・配布物　会報
・埼玉県交通死亡事故多発警報の発令について
・ロータリー財団奨学生募集のご案内

委員長報告

社会奉仕委員会　小川委員長
10/26 実施　スーパーカーラリーの報告
次週卓話　青少年奉仕委員会

ニコニコボックス

●長岡千晶会員、的矢友裕会員本日の卓話よろしくお願いします。楽しみにしております。＜会長、幹事＞●本日のイニシエーションスピーチを担当します。緊張しておりますが宜しくお願いします。＜的矢＞●本日イニシエーションスピーチ担当します。よろしくお願いします。＜長

岡＞●長岡会員、的矢会員、本日のイニシエーションスピーチよろしくお願いします。楽しみにしております。＜神谷、小杉、馬場（常）、水村、和田（尚）、野溝、藤井、西川、小髙、高木、佐藤、和田（喜）、中野（文）、鈴木（尚）、髙橋（徹）、小橋、鬼頭、塩野、戸口、岩堀、長瀬、新井、鈴木（健）、廣瀬、石井、蓼沼、山田（和）、栗原、齊藤（智）、津田、西澤、近藤、小川、髙原＞●１１月１４日埼玉県民の日は、国連の定めた世界糖尿病デーにあたります。この日、川越駅西口ペデストリアンデッキを糖尿病啓発のためにブルーライトアップします。１８時から！チラシ配りしていますのでお越し下さい。＜廣瀬＞●１０月２６日川越囲碁まつり、無事盛況で開催出来ました。天候には恵まれませんでしたが、島村会員も来て下さいました。皆様のご協力に感謝します。＜水村＞●結婚記念日ありがとうございました。＜新井＞合計４８，０００円

卓話（スピーチ）

〇長岡千晶会員：税理士法人長岡会計

・昨年 12 月に入会。1970 年 10 月生。幼少期は東京と横浜、小学校から所沢で育ち、現在は所沢在住。住み心地のよい所沢が好きです。川越はもっと大好きです。

・中高は女子学院で 6 年間。ミッション系の自由な校風のもと『自由には責任が伴う』を学び、誰かに頼らず自ら木に登る＝自立の力を鍛えました。校則はわずか四つ、毎朝の礼拝で「生かされている自分」を見つめる時間があり、自由と節度の両方を身体で覚えたと感じています。共学化の流れも理解しつつ、女子が自立の技術を磨ける場として女子校の価値はこれからも残したい―そんな思いを持っています。

・大学は京都大学工学部衛生工学科（現地球工学科）。レイチェル・カーソン『沈黙の春』や 92 年地球サミットの『持続可能な開発（アジェンダ 21）』に触発され、環境を工学的に学びました。気候変動や異常気象による災害・食料・水のリスク、そして人間が生み出す技術と倫理のギャップ―人類は環境破壊で淘汰されかねないという危機感は、今の私の背骨です。

・就職は 1995 年。建設コンサルに入り“土木系女子”として現場と設計を経験。その後、公認会計士に挑戦し、父の税理士法人を継いで、今は川越で公認会計士兼税理士として仕事をしています。

・公認会計士としては、日本公認会計士協会埼玉会に所属。現在、広報担当副会長として、公認会計士制度の広報活動、普及活動を行っています。小学生を対象に、『ハロー！会計』を開催し、会社の監査を体験してもらったり、ケーキの原価計算をしてもらったりということをして、公認会計士の仕事を知ってもらうという活動をしています。また、埼玉大学で会計士制度や仕事の説明、また卒業生による合格体験談など、会計士の魅力を伝える仕事もしています。

〇的矢友裕会員：飯能信用金庫南大塚支店

・家族は妻と息子二人。長男は大学 4 年、中学から文武両道を掲げて野球と学業に向き合ってきました。次男は、小学一年のとき自ら少年野球チームの門を叩きました。そして、結婚 25 年、私に自由な時間を与えてくれる妻に、すごく感謝をしています。

・私は、狭山市の出身で、学生時代は野球一筋。就職は、飯能信用金庫へ。法人営業など様々な経験をさせていただきました。３０年間働いていて「お金は信頼の上にしか流れない」ことを感じ、私の原点としています。信用金庫の仕事は、「地域の血液を循環させること」とよく言われます。お金が地域の中で動けば、人の繋がりも活発になって、地域も元気になる。その循環を支えるのが私たちの役割であると自負しています。 資金の話だけではなくて、誰にこの会社を託すのか、従業員をどうしよう、そういった思いはとても大きいもので、そこに寄り添えることができるのが、信用金庫の大きな存在意義だと私は感じております。

・その意味で、ロータリーの奉仕の理念は信用金庫の精神と重なります。仕事以外にも大切な学びがあることを感じ、ロータリーを通じて地域のための“心の投資”を少しずつ増やしていきたいと思うようになりました。